



トルコギキョウの1、2月出荷作型は開花時期が低温、低日照期に当たするため、安定生産が課題となっています。そこで1、2月出荷作型において「日没時から4時間の昇温処理後に夜温を下げることで、燃油削減効果のあるEOD-heating」と「昼温管理および二酸化炭素(CO₂)施用を組み合わせた管理」が切り花品質に及ぼす影響を明らかにしました。品種「冬のマリアイエロ」を9月14日に定植。EOD-heatingの設定温度を午後4〜8時は18度、その後翌朝の午前5時までは10度、同5〜7時は12度、同7

時〜午後4時までは14度で管理しました。日中の換気温度は22度または28度とし、さらにCO₂施用処理の有無について試験し

トルコギキョウ1、2月出荷

EODとCO₂施用 昼温28度で花大きく

ました。その結果、切花長は日中の換気温度22度比べ、28度で長くなりました。さらに切花重、65センチ調整重、最大花首径

昼温とCO₂施用の有無が1、2月出荷作型トルコギキョウの切り花品質に及ぼす影響

昼温(度)	CO ₂ 施用	切花長(cm)	切花重(g)	65センチ調整重(g)	最大花首径(※)(cm)
22	なし	70.3	97.3	77.4	4.7
28	なし	87.4	101.7	69.9	4.0
28	あり	68.9	121.7	98.5	5.4

※花首径：花の付け根部分の直径

は、28度でCO₂を施用することで増加し、ポリユームのある切り花を生産することができました。(長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門花き・生物工学研究室主任研究員 前田瑛里)